

**2021年（令和3年度）京都府立大学大学院・生命環境科学研究科
環境科学専攻（出題分野：生活環境科学）入学試験案内
補足資料**

各科目の出題の狙いと重視する知識・能力について、以下に説明しますので、参考にしてください。

<専門種目：住環境文化学>

・ **出題科目：住居建築史学**

住居建築史学研究室は、住環境を主として建築史の立場から研究している。従って、日本の住宅史に関する基礎的な知識を習得していることが研究の大前提となる。寝殿造りから書院造りの歴史、近世民家や町家の歴史、都市の歴史などを取り上げている指定教科書の指定ページは、このような観点から選んでいる。教科書中の基本的事項について、しっかりと勉強してほしい。

・ **出題科目：住生活学**

住まいのあり方や、良質な住まいを供給し、それを適切に維持管理するための仕組みを探求する姿勢、またそのために必要な基礎的な学力、素養を重視する。とくに、少子高齢化等、住生活を取り巻く社会経済環境や政治の動向にも関心を払い、住生活とそれらに関連付けて、論理的に説明できる力を問いたい。

指定参考書で論じられている住宅需要の動向やハウジングの歴史・方法、居住サービスシステムについての知識を習得するとともに、それらをもとにして、現代社会における住生活の課題、望ましい住まいやまちのあり方を論じられるように準備してほしい。

・ **出題科目：環境配慮型生活学**

環境配慮型のライフスタイルの中でも、ごみ減量・資源消費削減に関することを中心に出題する。

具体的には、循環型社会の基本的な考え方と循環型社会形成推進基本法の概要（特に3Rや2Rについての考え方、どのような取組み・行動がそれぞれにあたるのかの理解）、拡大生産者責任（EPR）政策、ごみ有料化、建設リサイクル法などの各種リサイクル法など廃棄物・資源に関する3R政策の概要、ライフサイクルアセスメント（LCA）の基本的な方法と温室効果ガスの取り扱い等を重点的に習得してほしい。

・ **出題科目：生活文化学**

「生活文化学」の学術的前提をなす基礎知識を正しく有するか、また「生活文化学」に関連が深い応用芸術分野や美学の主要な事項やテーマに関する知識を広く有するかをはかることを重視する。文化や美学についての定義や、主要な論者の名およびその人物の理論や主要著作などの基礎知識、各論者や理論に対応する時代、美学理論の変遷、応用芸術に関わる事項、その他、建築・都市・デザインに関連の深い美学と文化論の関係知識について、重点的に学習してほしい。

<専門種目：住環境計画学>

・ **出題科目：建築意匠学**

建築意匠学研究室では、建築空間に関する構想と設計手法に主眼を置いて具体的な計画の提案をおこなっている。よって、その基礎となる知識を身につけていることが必要である。特に、近代から現代に至る建築の潮流や変遷について理解し、重要とされる建築物、計画案、建築家、関連する用語について学習してお

いてほしい。

・ **出題科目：建築計画学**

建築計画学の試験では、建築計画の本来の目的である「建築を計画する際、何を検討しなければならないのか、どのような論を展開すべきか」を問う。用語説明など単なる知識でなく、各種建築の計画課題に対する適切なアプローチを重点的に勉強してほしい。

・ **出題科目：居住福祉計画学**

居住福祉計画学研究室では主に居住施設や福祉施設を対象とした調査研究を行っている。したがって入試では、これらを対象とした調査研究を行っていく上で必要な一定の知識を備えているか、また文章で論理的かつ明らかな説明ができるかどうか、を問う。

試験問題は指定した出題範囲から偏りが無いように出題する予定であるが、中でも現在や今後の社会的動向を踏まえた具体的な課題や計画的な知見を重点的に勉強しておいてほしい。また論理的かつ明らかな文章で物事を説明できるスキルを習得してほしい。

・ **出題科目：インテリアプロダクト学**

生活空間や生活用品の意匠に刻まれた地域的・歴史的特質が何によって形成されてきたのかを探究し、現代的課題をふまえつつ、今後どのように継承できるのかを提案するためには、日本の住空間に関する基礎的な知識とともに、それらと風土・歴史・生活様式などを関連付けて考察する力が求められる。

試験では、戦後日本を代表する住宅作品を題材として、それらが成立した当時の建築技術、社会状況や生活者の価値観、周辺環境などをふまえ、設計者の問題意識や設計意図とも関連付けながら、各々の空間的特質について論述できるよう準備してほしい。

・ **出題科目：インテリア計画学**

インテリアの計画や設計に際しては、人間が生活する空間の計画においてどのような点に留意しなくてはならないか、総合的な知識を身につけている必要がある。

試験に際しては、それぞれの時代の代表的な様式や事例が、どのような社会背景のもと生み出されたのか、歴史的な経緯も含めて理解されていることが望ましいと考える。

< **専門種目：住環境機構学** >

・ **出題科目：建築都市環境学**

建築・都市と生活者のより良い関係を追求するため、建築環境・設備学を中心に据えながら、周辺学問領域にも視野を広げて研究を行っている。そのためには、まずは当該分野の基礎知識を身につけていることが肝要であり、その理解度を問う。指定教科書から広範囲に出題するので、しっかり取り組んで欲しい。

加えて、昨今の社会情勢を踏まえた上での知識や技術の活用方法ならびに社会的責任、あるいは将来の展望についても、自身の考えを持っていることが望ましい。

・ **出題科目：木質構造学**

建築の基本構造材料としての鋼材、コンクリート、および木質材料を中心に基本的な知識と理解、ならびに構造力学に関する基本的な理解を問う。技術の進歩によって様々な機能性材料が建築の中で使われているが、前述の3つの材料については歴史も長く、今後も建築の重要材料である。こうした材料について知識と理解を得ることで、建築の普遍的なことからについての理解力と考察力を求めている。また、構造力学では、静定構造物の軸力、せん断力、および曲げモーメントの分布、および断面の性質について考察できることが必要である。

・ **出題科目：住環境防災学**

災害に強い住環境デザインを探求する上で必要となる基礎的な学力、素養を問う。都市災害の特徴を踏ま

え、特に、災害からの生活復旧・復興と住まい（避難所、応急仮設住宅、復興住宅など）、防災まちづくりと地域防災力の醸成、防災都市計画と都市防災対策の目標設定・評価についての基本的な考え方と方法について重点的に習得してほしい。

・ 出題科目：ランドスケープ学

「緑地計画学」と「景観生態学」の二項目についての基礎知識を問うため、この専門についての広域な知識と視点を持つことが必須である。中でも、緑地計画学としての「庭」や「造園」「景観」の知識と景観生態学としての「生態」や「環境」と云った幅広い知識を問うので、しっかりと学習して試験に臨んでほしい。